

編集後記

67巻4号をお届けします。新型コロナウイルス感染症の影響が続いています。第5波ともいわれる日本国内での流行のヤマは、これを書いている2021年10月中旬、ひとまず沈静化していますが、行く末はなお見通せない状況なのかと思います。

第122回日本医史学会島根大会が2021年9月18・19日にオンラインで開催されました。オンラインの利点をいかしつつ、工夫をこらして開催して下さった実行委員会のご尽力に感謝いたします。特に歴史・科学・音楽が協同する公開講座の併設は、市民の方々と医史学とをつなぐ試みとしても大きな意義があったのではないかと感じた次第です。

本号には、原著論文、ひろば、資料、消息、例会抄録、書評、そして「医史学と私」(田中祐尾先生)など、多彩な原稿を掲載することができましたが、原著論文については1本(村松洋先生)のみとなりました。査読のプロセスを要する原著論文、総説、研究ノートの掲載が増え、各号の充実した質の高い内容を維持するには、投稿および査読に関して、会員のみなさまのご協力が欠かせません。「コロナ禍」が続いている中、ご負担をおかけすることになりますが、引き続きご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(永島 剛)